

## 開こんのようす

当時の開こんは今のよう  
ブルドーザーやトラクターなどの  
機械もなく、唐ぐわをふるって、  
人力だけで、時にはひとかかえ  
もある松の根をほりおこしなが  
ら根気づよくつづけられました。

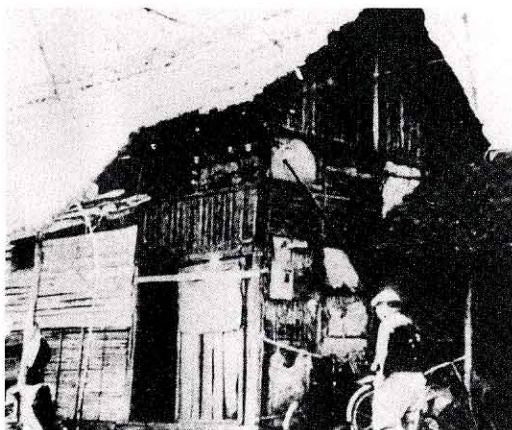
また飛行場のあとにはいたると  
ころにコンクリートの残がい  
が<sup>ざん</sup>あり、とりのぞかなければなり  
ませんでした。

ようやく、開こんした畑に種をまいても、土地がやせ、肥料<sup>ひりょう</sup>がない  
ので、まいた種の量ほども作物がとれないこともありました。

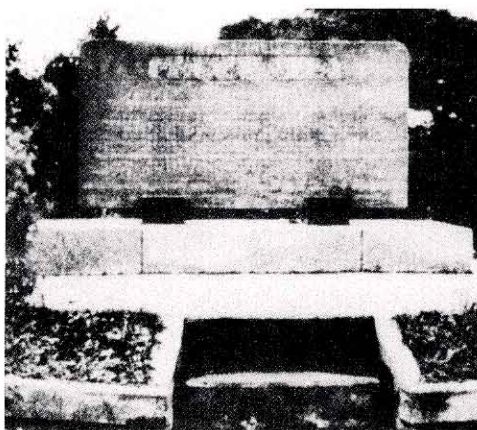
食べ物は配給<sup>はいきゅう</sup>されましたが、量が少なく、食べるのにせい一ぱい  
の生活でした。空腹<sup>えいようしつちよう</sup>と栄養失調になやまされながら、それでもくわ  
をふるいました。



矢吹が原開こん地に初めて種をまく入植者たち



矢吹が原飛行場跡地<sup>あとち</sup>に入植<sup>にゅうしょく</sup>した当時の家。  
現在はない。(昭和35年ころ)



開たく記念ひ